



■最近の話題

「排水改良の手引き」を作成しました

青森県では、令和2年2月に農作物の湿害を軽減するために有効な排水処理工法を紹介した「排水改良の手引き」を策定しました。

近年、全国各地で台風や大雨等による農作物被害が数多く発生しており、本県においても、平成28年の台風10号の長雨により、県南地方のながいもの湿害など野菜で約11億円の被害が発生しています。

このような中、本県では平成25年度に、深暗渠を設置したながいもの畑において、暗渠を設置していない畑よりも湿害の軽減が見られるなど一定の効果を実証しており、また、他県では水田転換畑に緩い傾斜をつけて地表排水を促す対策が実施されているなど、畑作物の湿害対策には排水改良が有効であることが確認されています。

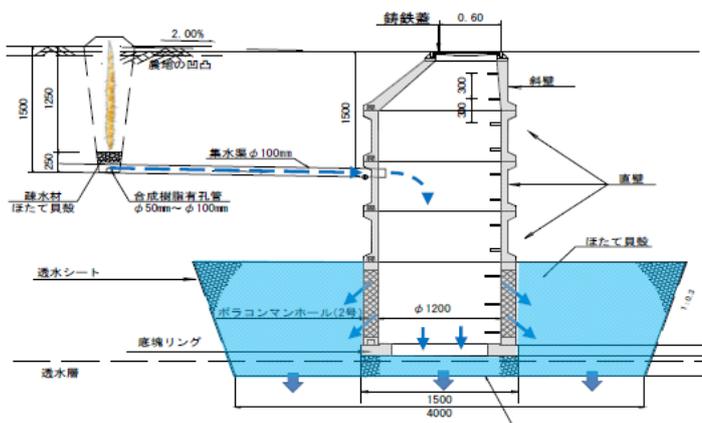
排水改良には、溝掘りや畝立てなど各農家が自ら施工できるものから、本暗渠の設置など、補助事業等を活用して大型機械で施工するものまで様々な工法があります。

本手引きでは、従来工法に加えて、県重点枠事業「低コスト畑作物排水改良推進事業」で検証した、排水先の無い畑にも暗渠を設置できる排水処理方法などを追加したほか、整備コスト等に対する不安を解消するため、標準的な施工費等を掲載しています。

生産者の皆様、本手引きを活用して、栽培する作物やほ場の条件に合わせた排水改良を行い、高品質生産と所得向上に繋がることを期待しております。

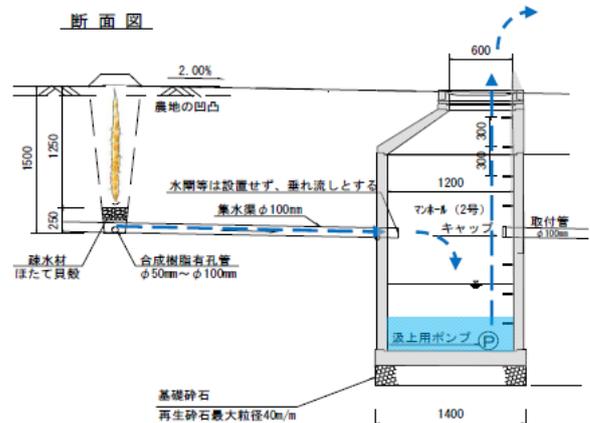
なお、本手引きは、県庁ホームページで公開しておりますので、参考といただければと思います。(県庁農村整備課HP: <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/haisuikairyoy-tebiki.html>)

○排水先の無い畑での排水処理技術



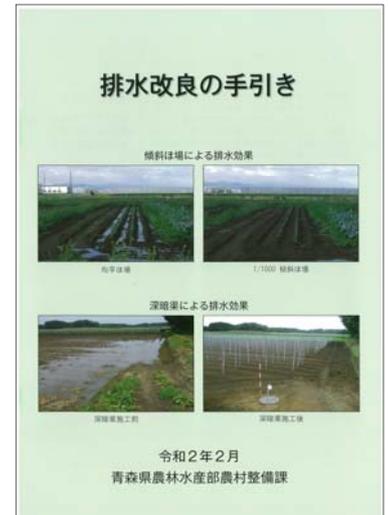
浸透式排水処理施設

※暗渠の流末を地中にある砂の層などへ浸透させる



ポンプ式排水処理施設

※暗渠の流末を一時貯留しポンプで排水路等へ汲み上げる



策定した手引き

■「環境公共」事例紹介

一川目地区(おいらせ町) ～過去と未来を繋ぐ森林「モリ」～

1 地区の概要

おいらせ町の太平洋沿線は、ヤマセと呼ばれる東からの冷風や、飛砂により道路や家、農地が埋もれるなど大変な環境にありました。そこで、地域住民の生活を守るため、昭和7年からクロマツを植栽し、モリを造って来ました。

おいらせ町では、このモリが6.75kmに及ぶ海岸防災林となり、昭和35年のチリ沖地震、昭和43年の十勝沖地震による津波の際も、背後に広がる農地や集落、ライフラインとなっている国道にも被害がほとんど無く、平成23年の東日本大震災に伴う津波でも防災効果が発揮されました。



【地区の全景】

2 森林の保全活動



【植樹祭に参加した方々】

平成23年の東日本大震災による津波で防災軽減機能を果たし、倒木や枯死した海岸防災林については、県による再造成を進める中、三沢市とおいらせ町沿岸住民が「地域の力で守り育てる海岸防災林整備活動支援連絡会」を立ち上げたことや、少しでも復興の力になりたいと地元小学校や企業などから復興植樹の要望が寄せられ、年4～6回の植樹祭を開催し、令和元年度末までに2.0ha、本数にして約2万本のクロマツを植栽しました。

昨年度は6月22日に地元町内会員のほか、青い森鉄道のツアー企画の参加者も含め83名による植樹活動を行っております。

平成23年の東日本大震災による津波で防災軽減機能を果たし、倒木や枯死した海岸防災林については、県による再造成を進める中、三沢市とおいらせ町沿岸住民が「地域の力で守り育てる海岸防災林整備活動支援連絡会」を立ち上げたことや、少しでも復興の力になりたいと地元小学校や企業などから復興植樹の要望が寄せられ、年4～6回の植樹



【植樹活動】

3 今後の取組

震災直後は脚光を浴び必要性を再認識させた海岸防災林ですが、年数が経つにつれ、重要性の認識が失われつつあります。

上北地域県民局では未来を担う地元「おいらせ町立甲洋小学校」の生徒へ出前講座により、モリ【海岸防災林】が果たしてきた重要な生活環境の保全と防災の機能を伝える活動を行って

おり、地域の子供たちが、先人が長い年月をかけ、育て、守ってきた海岸防災林の復活が安全な未来の生活環境には重要なことであることを思い、植樹の継続は基より、前進して植栽した苗木の成長を促す保育も行っていけたらと期待しております。



【出前講座】